

<目的>

持続可能な公共交通網を形成するために必要な取組として、国の補助事業を活用しながら計画的に自動運転導入を推進していくため、「新技術の活用(自動運転の導入検討)」の熊本地域公共交通計画への位置付けを諮るもの。

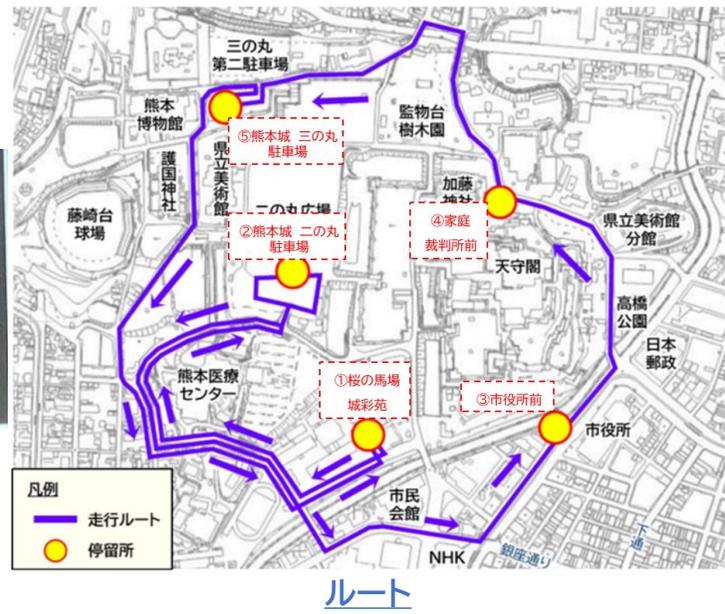
<R6年度 実証運行の概要>

- まずはレベル2にて自動運転バスを実証運行し、安全性や一般交通への影響、社会受容性を確認
- 今後のレベル4実装に向けた検証や機運醸成を行う

令和7年(2025年)3月末まで(予定)
 ※開始日未定
 <10時~16時頃/1日6便程度>
 ※運賃無料

使用車両

最高時速:35km/h(自動運転時)
 定員:15名(運転手除く)



<今後の展開(イメージ)>

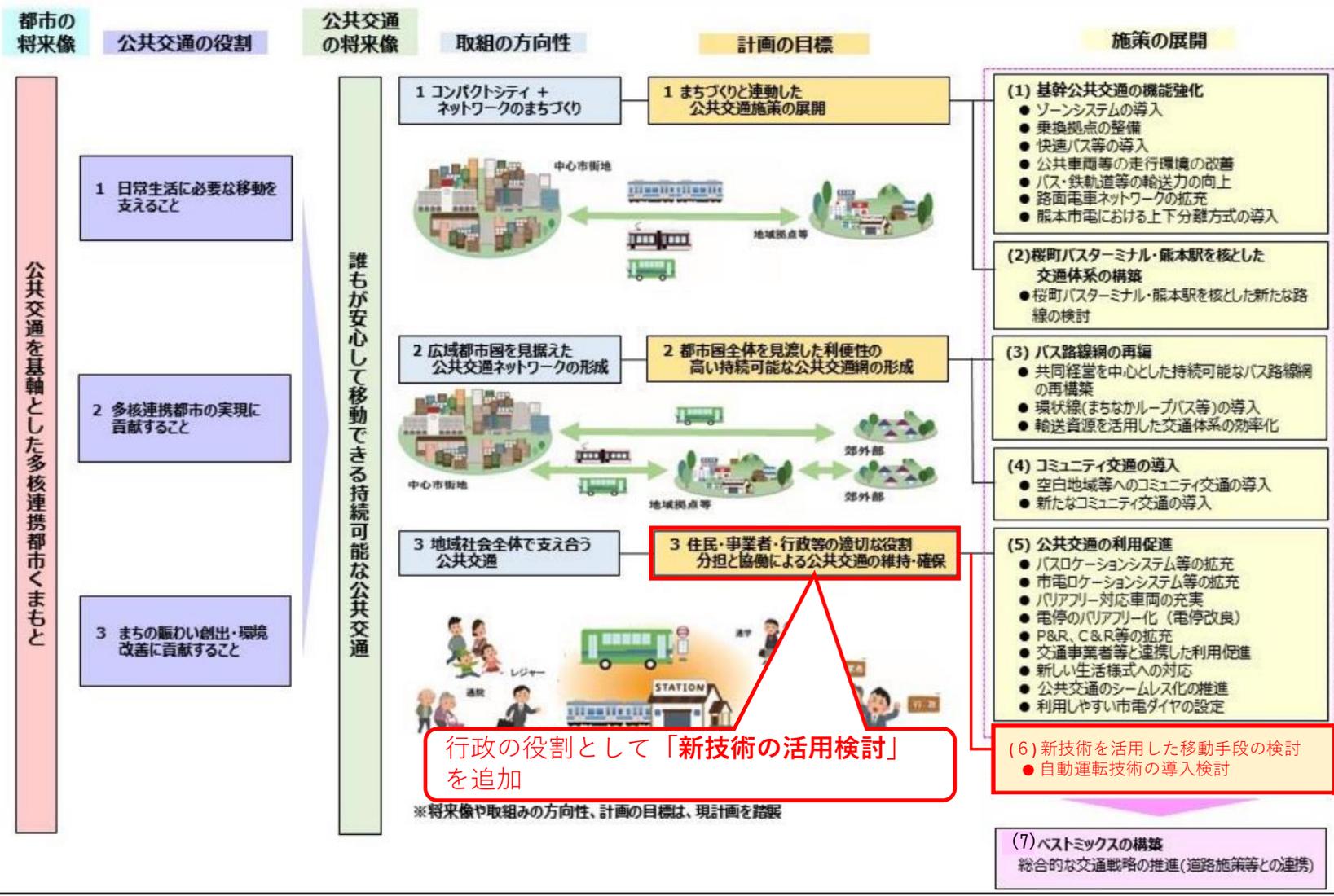
	社会実験フェーズ	実装・展開フェーズ	
	R6(2024)年度	R7(2025)~R8(2026)年度	R9(2027)年度~
レベル	レベル2	レベル2継続~レベル4検証	左記の継続~レベル4実装
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ○安全性・社会受容性の確認 ○機運の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ○レベル2検証を継続しながら、レベル4検証へのステップアップ ○他ルート(バス路線等)への展開 ※詳細はR6実施状況を踏まえ検討 	
計画	<ul style="list-style-type: none"> ○地域公共交通計画への位置付け(一部改定) 	<ul style="list-style-type: none"> ○計画改定(R8.4)に合わせた見直し ⇒ 計画に基づき事業実施 	

熊本地域公共交通計画の一部改定について

<計画位置づけイメージ>

【R6年度中】

- ①計画目標3に行政の役割として「新技術の活用検討」を追加
- ②施策の基本的な考え方として「新技術を活用した移動手段の検討」を追加
- ③事業として「自動運転技術の導入検討」を追加



【R7年度～】次期計画改定（R8.4）に合わせた見直し

熊本地域公共交通計画の一部改定について

<計画改定案>

第6章 計画の目標

目標3 住民・事業者・行政等の適切な役割分担と協働による公共交通の維持・確保

(取組の方向性3)
・地域社会全体で支え合う公共交通

誰もが安心して移動できる持続可能な公共交通の実現に向け、公共交通を地域社会全体で支え合っていくために、『住民・事業者・行政等の適切な役割分担と協働により公共交通を維持・確保していくこと』を目標とします。

具体的には、行政や公共交通事業者が連携し、キャンペーンや広報活動など利用促進に向けた取組を展開していく中で、将来的な公共交通の必要性や価値について地域社会全体が共通の認識を持てるよう、住民や企業等の事業者に対して公共交通の担い手としての意識の醸成に努めます。

また、住民等においては、公共交通の担い手としての自覚を持ち、公共交通を積極的に利用するとともに、公共交通サービスの改善点などを行政や公共交通事業者に提案することなども重要であり、また、行政や公共交通事業者は、住民等公共交通に関する意見等について様々な機会を捉えて広く聴取していくことが重要です。

さらに、**昨今の深刻な運転士不足など大きな課題がある中、公共交通の維持・確保等に向けた行政支援のあり方についても、既存の枠組みに囚われない支援や新技術の活用などを検討することも重要です。**

このような取組を進めることで、公共交通を地域社会全体で支えていく環境の構築を目指します。

第6章:計画目標3

第7章 目標達成のための施策・事業

(6) 新技術を活用した移動手段の検討

○昨今の深刻な運転士不足への対応や移動手段の確保、公共交通の利用促進など地域公共交通が抱える課題解決に向けて、自動運転等の新技術を活用した移動手段の検討に取り組みます。

(7) バストミックスの構築

○地域特性に応じて

第7章:施策展開の基本的な考え方

第7章 目標達成のための施策・事業

事業(23):自動運転技術の導入検討

実施の目的	新技術を活用した移動手段の検討			
事業の概要	自動運転技術の導入検討			
主な事業エリア	計画区域内			
実施主体	熊本市、交通事業者、事業者	実施時期	前期	後期
関連目標	目標③		(新規)	検討・実施

熊本地震以降深刻化している運転士不足への対応や、老年人口が増加傾向にある超高齢社会への対応、公共交通の利用促進を図ることを目的に、新技術(自動運転技術)を活用することで、移動手段の確保やマイカーから公共交通への転換を図るものです。

本市においては、まずは自動運転を目指した運転支援レベル2のバスから実証実験を開始し、システムによる監視となる自動運転レベル4の社会実装に向けた検証を進めることで、自動運転技術を活用した地域公共交通の維持・確保につなげていきます。

第7章:目標を達成するための事業